

令和7年度
文化庁文化芸術創造拠点形成事業

としま能の会

狂言

アウトリーチ

公演

実施レポート

としま能の会
狂言アウトリーチ公演
実施レポート

企画・発行

公益財団法人としま未来文化財団 事業企画課 事業企画グループ

助成

令和7年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



公益財団法人としま未来文化財団

はじめに

公益財団法人としま未来文化財団では、古典芸能に触れる機会の少ない世代にも日本の伝統芸能を知ってもらべく、令和5年度より、豊島区内の小中学校を対象とした能楽のアウトリーチ公演を実施してきました。

本レポートでは、令和7年度に実施した「としま能の会 狂言アウトリーチ公演」の概要や実施の流れ、および各校での実施結果などを掲載しています。

豊島区が掲げる「豊かな心と活発な交流を育む多彩な文化のまち」の方向性に基づき、未来を担う若い世代が伝統文化に触れ、参加・体験できる機会を今後も創出していくために、この取組みを発展させていきます。

公益財団法人としま未来文化財団

公益財団法人としま未来文化財団

事業企画課 事業企画グループ

〒170-0013

東京都豊島区東池袋1-20-10

TEL:03-3590-7118(平日10:00~17:00) / FAX:03-3984-0865

目次

「としま能の会」とは	P3
狂言アウトリーチ公演の概要	P4
アウトリーチ公演実施の流れ.....	P5-6
令和7年度実施プログラム／実施校一覧	P7
当日の流れ	P8
学校側で準備いただくもの ／財団・講師側で準備するもの	P9
令和7年度実施校の感想	P10

「としま能の会」とは

「としま能の会」は昭和63年から令和4年まで毎年開催していた、能楽界を代表する演者による能楽公演です。

「東京国際演劇祭 池袋'88」の参加プログラム「としま新能」としてスタートし、東池袋中央公園に特設した能舞台で豊島区在住の狂言方と泉流能楽師・野村萬師(当時:四世万之丞)をはじめとする能楽師が出演しました。平成8年から東京芸術劇場プレイハウス(当時:中ホール)に会場を移し、平成10年からは「としま能の会」に名称を改め公演を継続。令和2年/令和4年には豊島区立芸術文化劇場<東京建物 Brillia HALL>で第33回および第35回公演を開催しました。



©新宮夕海

その後3年に渡り公演は休止していましたが、その間もシテ方観世流能楽師・観世喜正師による能楽講座や狂言方と泉流野村万蔵家の能楽師による狂言アウトリーチ公演などを実施し、能楽の普及に努めてきました。令和8年3月に当財団設立40周年記念事業として、初の能楽堂および区外開催となる第36回公演を新宿区の矢来能楽堂で開催。夜の部で上演した能「鞍馬天狗」では一般募集した区内在住・在学の小学3～6年生が稽古を経て出演するなど、区内を中心に伝統芸能の裾野を広げる役割を担っている事業です。



©新宮夕海

狂言アウトリーチ公演の概要

本事業は、豊島区内で開催されてきた「としま能の会」出演の能楽師を豊島区内の小中学校に派遣し、解説や実演、体験を行うアウトリーチ公演です。

子どもたちが教科書にも登場する狂言の演目を本物の能楽師から間近で学ぶことで、日本の伝統芸能の知識や理解を深める機会を創出し、伝統芸能への興味を持つきっかけとなることを目的に実施しています。

形式

狂言の派遣型公演
(アウトリーチ)

講師

狂言方と泉流
野村万蔵家所属の能楽師(令和7年度)

対象

豊島区立小中学校に在籍する
小学4～6年生/中学1～3年生
※令和7年度は中学校での実施はなし

会場

各校体育館

時間

平日の授業時間内
(1限は除く)



実施の流れ

1 実施のご案内

- 財団から各校へ、アウトリーチ公演の実施についてご案内します。
※令和7年度は校長会にてご案内

2 お申込み

- 申込書に必要事項をご記入いただき、メールまたはFAXにて申込を承ります。

3 実施可否のご連絡

- 申込締切後、公演の実施可否についてメールまたは電話にて連絡します。
※申込多数の場合は抽選

4 公演日時の決定

- 各校より希望日時を募った上で財団担当職員が講師と日程調整を行い、公演日時を決定します。

5 打合せ日時の決定

- 公演日時決定後、財団担当職員が担当教員の方と日程調整を行い、事前打合せ日時を決定します。

6 事前打合せ(1時間程度)

公演実施の概ね1か月前までに、公演内容や会場状況等の確認のため、財団担当職員が現地に伺い打合せおよび会場下見を行います。

確認事項

- 公演内容(実施日時/担当教員/参加人数/当日の流れ等)
- 舞台装置(バトン/照明)や講師控室の確認
- 入校方法や駐車スペース

※下見は、体育館が空いている時間帯に行います。
※打合せ/下見は、担当教員の方で行います。
※講師関係者が打合せ/下見に同行する場合があります。



7 プログラムの送付

- 公演の概ね1週間前までに鑑賞の手引きとなるプログラムを送付します。
公演当日までの事前学習にご活用いただくことで、演目に対する理解と鑑賞効果をより深めます。

8 公演実施

- 講師と財団担当職員が各校に伺い、公演を実施します。
※公演当日の流れはP8をご参照ください。

9 アンケート

公演実施後、財団担当職員から担当教員の方へアンケートを送付します。

令和7年度実施プログラム

◆狂言「柿山伏」

小学6年生の国語の教科書に狂言「柿山伏」が掲載されていることから、子どもたちの日常の学びとリンクさせた公演内容を実施。興味関心を深めるため、実演鑑賞だけでなく、狂言についての解説や狂言体験等も行いました。



講師 野村万之丞／野村拳之介／野村眞之介／石井康太

対象 小学6年生 **時間** 45分～50分

会場 各校体育館

令和7年度 実施校一覧

No.	学校名	講師	実施日時	鑑賞者
1	巢鴨小学校	野村万之丞 野村拳之介 石井康太	10月7日(火) 4限(11:20～12:05)	6年生2クラス 70名、教員2名
2	駒込小学校	野村万之丞 野村拳之介 石井康太	11月4日(火) 4限(11:30～12:15)	6年生3クラス 86名、教員3名
3	池袋本町小学校	野村万之丞 野村眞之介 石井康太	11月19日(水) 2限(9:35～10:20)	6年生4クラス 130名、教員4名
4	目白小学校	野村万之丞 野村拳之介 石井康太	12月5日(金) 2限(9:35～10:20)	6年生3クラス 105名、教員3名
5	椎名町小学校	野村万之丞 野村拳之介 石井康太	12月9日(火) 6限(14:20～15:05)	6年生2クラス 67名、教員2名
6	高松小学校	野村万之丞 野村眞之介 石井康太	12月17日(水) 3限(10:40～11:25)	6年生3クラス 92名、教員3名

当日の流れ(公演の内容)

内容	時間	詳細
会場入り 設営／準備	公演開始の 概ね1時間前	照明・マイク等の設備確認、会場の清掃 講師控室の最終準備
	公演開始の 概ね50分前	公演に使用する小道具の設置・確認 装束への着替え
公演開始		
講師紹介	—	財団担当職員が進行します。
解説	15分	講師が狂言について解説します。 例 ・狂言とは(歴史／特徴) ・能舞台の説明(松の木が描かれている理由／場面転換の方法) ・小道具の説明(扇の使い方／柿の木の表現) ・狂言「柿山伏」のあらすじ
鑑賞	15分	狂言「柿山伏」の実演を鑑賞します。 (登場人物) ・山伏 ・柿の木の持ち主
体験	10分	狂言「柿山伏」に登場する所作を用いて、 狂言体験を行います。 講師が舞台上で手本を見せながら進行します。 例 ・柿の実をもぎ取って食べる ・動物の鳴き真似 ・狂言の笑い方／泣き方／怒り方
質問コーナー	5分	子どもたちからの質問(挙手制)に講師が答えます。
公演終了		
片付け 撤収	概ね公演終了の 20分後	講師撤収
	概ね公演終了の 30分後	完全撤収

学校側で準備いただくもの

- ◆ 体育館
(舞台/照明/吊物バトンを含む)
- ◆ ワイヤレスマイク2本
- ◆ 講師控室
(要着替えスペース/体育館下手が望ましい)
- ◆ 児童の椅子
(防災頭巾やマットが望ましい)
- ◆ 駐車スペース2台分



財団・講師側で準備するもの

- ◆ 資料
(打合せ資料/タイムテーブル)
- ◆ プログラム
(鑑賞者全員分/区交換便で事前送付)
- ◆ 装束や舞台セット
- ◆ 担当教員用アンケート
(後日送付)



令和7年度実施校の感想

担当教員からの声

Q. 印象に残った内容をお聞かせください。

子供たちにとって、柿山伏を実際に鑑賞することができたことがとても良かったと思います。教科書の内容だけではわからない部分もあるので、実際に見ることはとても有益だと感じました。

Q. ご感想・ご意見などを自由にご記入ください。

◆ 児童がとても楽しんでいました。実際の狂言はなかなかみられないものなので、興味深々でした。

◆ 日本文化について調べる学習で、狂言をテーマにする児童がいました。



子どもたちの声

狂言を動画で見たことはあったけれど、実際にライブで観ると声も大きくて迫力がすごかった。

楽しかった。今回教えてもらったことをふまえて、また生で狂言を観てみたい。

今のコトは小道具やライトをたくさん使うけど、狂言は道具をほとんど使っていないけども室町時代当時の言葉で人を楽しませているのがすごいと思った。

体験コーナーで、動物の鳴き声、笑い方や怒り方をモノマネできて、とても面白かった。

「狂言は難しい」というイメージが前まであったけど、意外と面白くて親しみやすく、狂言の印象が変わりました。

それぞれが引き落とした失敗や間違いが楽しく愉快に演じられていて面白かったです。